

二十歳の誓い

僕は小学6年生の時にクラス全員で、京都検定にチャレンジしました。それから一年後の中学1年生の時に突然電話がかかってきて、「ジュニア京都観光大使に任命されました」と言われたんです。

正直、最初はなんのことかよーわからなかったのですが、参加してみると、国立博物館や修学院離宮に行って京都の歴史を学んだり、老舗和菓子店での和菓子作り体験とか、滅多にできない経験ができたことで、僕は京都に興味を持ちました。そして京都文化コースのある高校を選択しました。そこでは、通常の勉強以外に、すぐ隣にある京都御苑や街の歴史を学んだり、フィールドワークを中心とした体験的な学習ができたのです。土地の歴史や成り立ちを知っていく中で、いつの間にか「散歩」というどこか大人な趣味ができました。京都の街を歩いていると、頭の中にある「昔」と目の前にある「今」が重なって、まるで、タイムスリップしているように感じる事ができるんです。

そんな僕ですが、部活動では野球部のキャプテンを務めていました。でも高校2年の秋、新型コロナの影響で部活動ができなくなってしまったんです。それは思春期の僕たちにとってあまりにも大きすぎる壁となりました。部活動が再開されてからも活動時間の制限などでモチベーションが上がらず、雰囲気の良い毎日が続いてしまい、キャプテンであるはずの僕自身もその空気に流されてしまっていました。ほんっまに、反省しています。

でもそんな自分に監督が、「お前が変わればチームが変わるんや、だから頑張れ」と声をかけてくださったんです。

「いやいや、そんなわけないやろ」と思いながらも、次の日から誰よりも早くグラウンドに行き、誰よりも声を出しました。さらに人に対して強くものが言えない性格でしたが、チームメイトに対して、時には厳しい言葉をかけるようにしました。すると2週間ほど経つと、僕の行動が、1人、2人と広がって行って、なんと1ヶ月経つ頃にはそれがチーム全員の当たり前前の行動へと変わったんです。本当に、自分の行動でチームが変わったんです。

「自分が変われば相手も変わる」「自分が変われば周りも変わる」今でも大切にしている言葉です。

散歩や野球だけではなく、もう一つ高校時代に打ち込んでいたものがあります。それは「漫才」です。中学3年から興味を持ち、高校3年生の冬に、「高校生漫才日本一」を決める大会に出場し、全国679組の中から、優勝して、日本一になりました。それが日曜日だったこともあって次の日の学校ではみんなから「おめでとう」「すごいやん」と祝ってもらい、とても嬉しかったんですが、その次の日からは何事もなかったかのように何も言われなくなったことは少し寂しかったことを覚えています。

今は大学に通っていますが、卒業後は副賞としてもらった特待生の権利を使って、NSC、吉本養成学校に行きます。私の目標は、誰からも愛されるお笑い芸人です。これまでの経験やご縁に感謝し、この目標を叶えることを「二十歳の誓い」とさせていただきます。

本日は私たちのためにこのような盛大な記念式典を開催していただきましてありがとうございます。心より御礼申し上げます。